



第 5 2 号
2020 年 3 月 31 日



埼玉県合唱連盟
〒330-8557 さいたま市浦和区常盤4-12-13
(朝日新聞さいたま総局内)
TEL 048-824-8161
FAX 048-831-5310
<http://saicl.net/>

～響きわたった感慨無量のハーモニー～

第72回 全日本合唱コンクール全国大会

2019年10月26日(土)・27日(日) 高等学校部門 (A・B)、中学校部門 (混声・同声)

於：岡山県岡山市／岡山シンフォニーホール

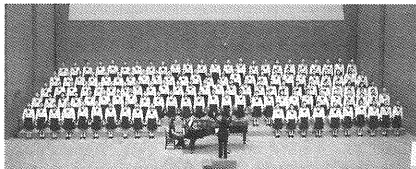
11月23日(土)・24日(日) 大学職場一般部門 (大学ユース・室内・同声・混声)

於：京都府京都市／ロームシアター京都

【高等学校部門Bグループ】

松山女子高等学校音楽部

部長 松永 珠希



金 賞

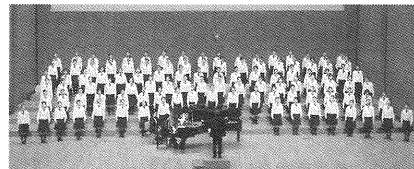
私たちは、今回で6度目となる全日本合唱コンクール全国大会に出場し、金賞を受賞しました。また素晴らしい舞台上に立たせていただけたこと、このような賞を受賞できたことを大変嬉しく思っています。

これまでの練習では、楽しいことだけでなく、意見のぶつかり合い等の辛いこともありました。しかし今ではどれも貴重な経験で、最後には部員全員が楽しみ、私たちらしい演奏をすることができたと思います。そして保護者の方やOG、応援して下さる全ての方々の支えが私たちの活力となっていました。改めて私たちは幸せ者だと思いました。

この環境で練習できることや、応援して下さる全ての方々への感謝の気持ちを忘れず、これからも練習に励んでまいります。

星野高等学校音楽部

部長 栗城 優花



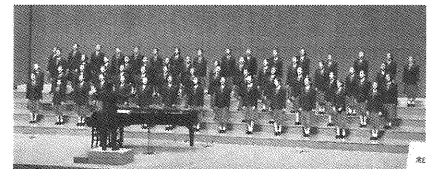
金 賞

私たち星野高等学校音楽部は、12年ぶり2度目の金賞を受賞いたしました。昨年全国大会に出場することができなかった悔しさをばねに、一人一人が曲に向き合い試行錯誤を重ねてきました。練習では、詩のテーマや曲中に繰り返される単語の意味、フレーズごとの情景描写など部員全員で考え、意見を出し合いました。学年の壁を越えて意見を共有することで、より一層曲への理解が深まり、大人数で一つの音楽を創り上げるための大きな助けとなりました。本番は私たちらしく、今までの練習の成果を発揮できたと思います。何より全国大会という舞台で星野高校の音楽をお客様にお届けすることができ、本当に嬉しかったです。このような経験ができましたのも、埼玉県合唱連盟によるご支援のおかげと心より御礼申し上げます。

【中学校部門同声合唱の部】

さいたま市立宮原中学校女声合唱団

顧問 岩淵 智哉



金 賞

「金賞」とアナウンスされた時、全員が望外の結果に驚き、そして喜びに湧きました。

顧問含め、全国大会は初体験。大会当日は夕方の出演ということもあり、コンディション調整に苦慮しましたが、午前は混声の部を鑑賞し気持ちを高め、午後は本番を意識した練習を行うなど、心技両面からできるだけのことをやりました。

思えば今年度は顧問が変わり、試行錯誤の連続でした。練習方針などが変わり、当初は部員も戸惑ったようです。そのような中、金賞をいただけたのは、部員の頑張りをはじめ、学校や地域の方々、埼玉県合唱連盟の皆さま方あったこととっております。

今後も「当たり前を日本一に」を目標に、より豊かな演奏を目指して精進いたします。



【高等学校部門Bグループ】
浦和第一女子高等学校音楽部

部長 吉田 華音



銀 賞

昨年の全国大会では、課題曲で高田三郎先生の「飛翔一白鷺」を、自由曲で土田豊貴先生の委嘱作品「再会」を演奏いたしました。

「唯一無二の音となれ」というスローガンのもと、私達にしかつくりえない音楽を目指し、この二曲と向き合ってきました。

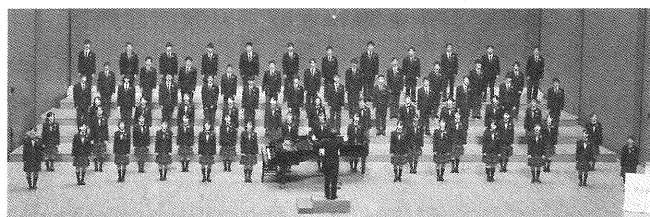
全国大会では、自分達の思う表現をのせた二曲を、素晴らしい舞台上で演奏できる喜びで胸がいっぱいでした。

数々の他校さんの演奏には、一つ一つ違った素晴らしさがあり、合唱の奥深さ、おもしろさを改めて感じる事ができ、大変刺激を受けました。

今後も、大会を通して学んだこと、感じたことを活かしながら、支えてくださる方々、共に音楽をする仲間への感謝を忘れず、日々練習に励んで参ります。

叡明高等学校混声合唱団

部長 杉浦 健太



銀 賞

叡明高等学校混声合唱団は、この度第72回全日本合唱コンクール全国大会へ出場させていただき、銀賞を受賞しました。全国大会への出場は2年ぶり2回目となります。

今大会での3年生は、全国大会初出場時1年生でした。全国大会を経験し、より全国大会での金賞への思いが強くなりました。昨年は出場できず、今年こそはという気持ちでコンクールにのぞみました。全国大会での結果は銀賞でしたが、部員みんながやりきった達成感を感じていました。

叡明混声の歴史は始まったばかりです。これからたくさんの経験を積み、もっと成長していきます。叡明混声の成長を温かく見守っていただけたら幸いです。今後ともよろしくお願ひします。

【大学職場一般部門室内合唱の部】

La Mer

団長 富岡 麻友美



銀 賞

昨年の11/23にロームシアター京都にて行われました、第72回全日本合唱コンクール全国大会 大学職場一般部門 室内合唱の部に出場し、銀賞をいただくことができました。千葉県で開催された関東大会では、台風の影響で交通機関が大幅に乱れ、出場を辞退する団もありました。これまで当たり前と思っていた、『仲間と共に歌う』ことが有難いことであると実感する大会となりました。

団として、10年ぶりの全国大会出場となりました。この10年間は、声作りや音楽作り、団員募集などに悩む10年間でした。『歌うことは、心をひらくこと』。指揮者の大竹先生の言葉です。これからも人生の歩みと共に歌い続けていきたいです。

第1回全日本小学校合唱コンクール全国大会

11月3日(日・祝)

於：東京都新宿区／新宿文化センター

朝霞市立朝霞第十小学校合唱団 うたの輪

顧問 大塚 博子

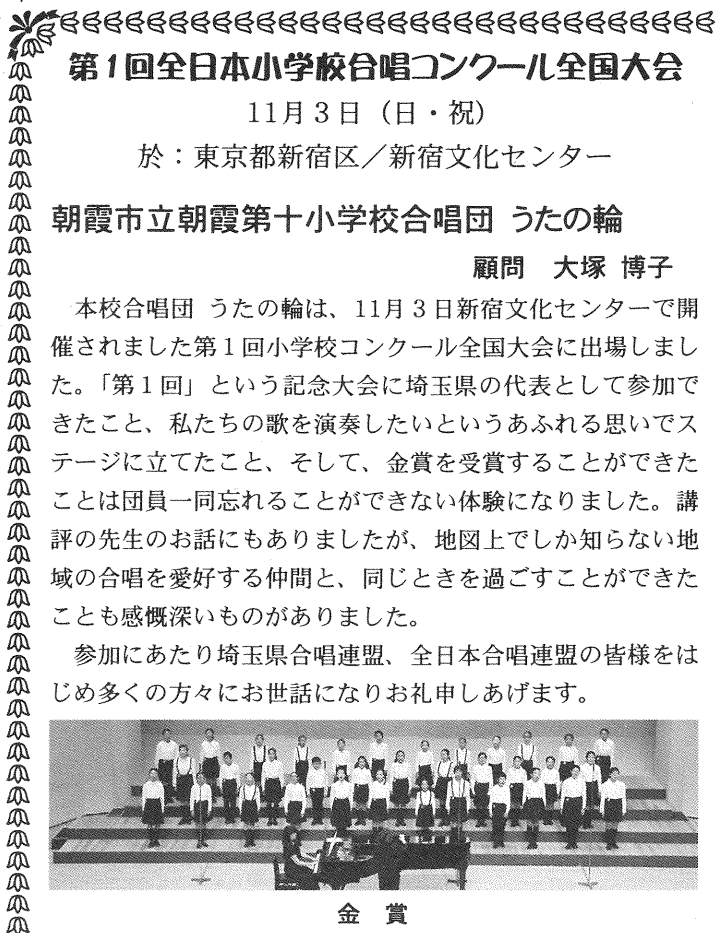
本校合唱団 うたの輪は、11月3日新宿文化センターで開催されました第1回小学校コンクール全国大会に出場しました。「第1回」という記念大会に埼玉県代表として参加できたこと、私たちの歌を演奏したいというあふれる思いでステージに立てたこと、そして、金賞を受賞することができたことは団員一同忘れることができない体験になりました。講評の先生のお話にもありましたが、地図上でしか知らない地域の合唱を愛好する仲間と、同じときを過ごすことができたことも感慨深いものがありました。

参加にあたり埼玉県合唱連盟、全日本合唱連盟の皆様をはじめ多くの方々にお世話になりお礼申し上げます。



金 賞

撮影：スタッフ・テス(株)
株大阪フォトサービス





作曲家・川浦義広先生に聞く ～合唱コンクールを振り返って～

『出だしてゾクッと!』



昨年全日本合唱コンクールの課題曲・雪（G4）を作曲された川浦義広先生に、「コンクールを振り返って」と題してお話を伺いました。先生は第29回朝日作曲賞を当時25歳で受賞された埼玉県が誇る新進気鋭の作曲家です。

《ご自分の曲をコンクールで聴いて》

埼玉県大会では「雪」を演奏してくださったのが高校1団体、一般1団体の計2団体。全国的に見ても他の課題曲に比べて多くはありませんでした。しかし、コンクールの課題曲としてはいささかフィットしづらい曲という自覚はありましたので、全国的に見れば私としてはことのほか多くの団体に取り上げてくださったことに感謝しております。

プロの演奏会とコンクールの違いの大きさに、驚かされました。

何が違うかと言いますと、例えばプロの合唱団に自分の作品の初演をお願いするとします。プロの皆さんは限られた時間の中で（いささか短い…）、「プロとしての最良」の演奏をしてくださいます。私も練習に立ち会い、「この部分は、このような意図で書いていますので…」等の助言をし、私の中での「正解」がコンサートの舞台で実現されます。

しかし、コンクールの場合はプロとは違う「練習時間」と「取り組み」の中で、私が思いもなかった音楽が実現し、私の中の「正解」を超えて客席に感動を届けてくださる。しかも同時期に複数の団体が様々な「雪」を見せてくださったのです。これは今までに経験したことのない驚きと喜びでした！

ある団体は、初期段階では「ソルフェージュ的」（音取りの？）な演奏に終始していましたが、数週間後に耳にした演奏は明らかに魅力的になっていました。更にはコンクール当日、「雪」の出だして自分の作品ながらゾクッとさせられるほど、音楽を磨き高めてくださったのです。

1音、1小節、1つのフレーズ、1つの子音の発音、

1つの和音…。それらを深く掘り下げてくださり、作曲家自身も気づいていなかった解釈や色彩、そして想いを客席に届けてくださったのです。

自分の作品をここまで時間をかけて大事に育ててくださるという過程・経過を見せていただけたことは作曲家として大きな収穫でありました。

《今後の作曲活動》

今までに生み出された沢山の名曲。その系譜とは違うアプローチをすることが合唱作品を作曲するうえでの川浦義広の存在意義であると考えます。大事にしたいのは「未聴感」です。聴衆がそれまで聴いたことのない音楽の創造。そう感じていただける作品を生み出していきたいですね。

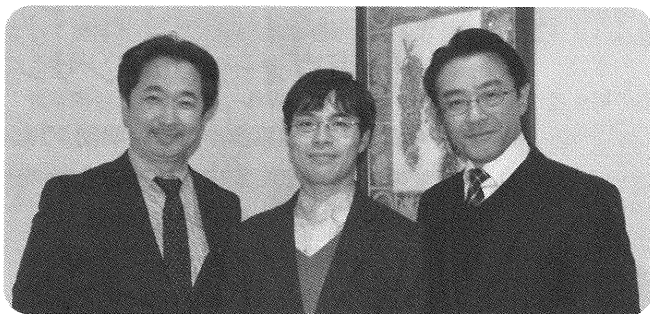
合唱の黎明期から、現在、そして未来へと続く合唱の歴史の中で、自分の作品が新しい歴史の扉を開いたと言っていただけるように精進していきたいと考えています。

そして、その活動が埼玉の地で埼玉県合唱連盟の皆様と成し遂げられれば、これ以上の喜びはありません。

～本日はありがとうございました。

昨年発行の50号に続いて再びのご登場。コンクールに接した高揚感が強く伝わる、静かな語り口ながら情熱に溢れるお話を聞かせてくださいました。

これからも、埼玉生まれ、埼玉育ち、埼玉在住、埼玉勤務の川浦先生を埼玉県合唱連盟は応援してまいります！



左から 佐々木常務理事、川浦先生、浅子理事

インタビュー：常務理事 佐々木憲二
理事 浅子 元
撮影：埼玉県合唱連盟



～ホールに響く 魂込めたわれらの歌声～
第 31 回

埼玉ヴォーカルアンサンブルコンテスト

2020年1月13日(月・祝) 小学校の部・中学校の部
18日(土) 高等学校の部①・ユースの部
19日(日) ジュニアの部・高等学校の部②・レディーの部・一般の部
於：ウェスタ川越 (13日)、久喜総合文化会館 (18日・19日)

今年も上記日程にて第31回埼玉ヴォーカルアンサンブルコンテストを、久喜総合文化会館を含む2会場で開催いたしました。参加は7部門129団体となり、3日間にわたっての熱演が繰り広げられました。今回第1日目の会場となりましたウェスタ川越はアンサンブルコンテストとしては初めての会場でしたが、皆様方のご協力によりスムーズに執り行うことができました。

審査方法については、昨年度より検討を重ね、今回から「単純総当たり方式」を導入いたしました。

演奏は各部門とも大健闘でしたが、今回は特にユースの部のハイレベルでの競い合いが印象的でした。昨年度より開設した小学校の部も2団体のみ参加でしたが、みごとなア・カベラの演奏を聴かせてくれました。

指揮者無しで演奏を行った団体もある一定数おり少人数ならではのアンサンブルを披露してくれましたが、審査員の方から、「指揮者なしで良かった団体と指揮者がい

た方が良かった団体がありました」とのご指摘もありました。今後、アンサンブルの裾野を広げるとともに、さらなるレベルアップに向けて連盟として積極的な取り組みが必要と感じております。

ジュニアから一般まで、幅広い年齢層の皆様にご出演いただきたく思っております。来年度も多くの皆様のご出演をお待ちしております。

(常務理事 小林とせ子)



第9回 関東ヴォーカルアンサンブルコンテスト中止について

3月7日(土)、8日(日)に新潟県民会館(新潟市)で予定しておりました第9回関東ヴォーカルアンサンブルコンテストは新型コロナウイルスの感染拡大を避けるため、開催中止となりました。埼玉県合唱連盟としても、皆様の活躍を楽しみにしておりましたので、大変残念に思っております。

出演する予定だった埼玉県からの推薦団体をご紹介します。

関東ヴォーカルアンサンブルコンテストへの推薦団体

小学校：朝霞市立朝霞第十小学校合唱団 うたの輪

中学校：さいたま市立宮原中学校混声合唱団B、川越市立山田中学校音楽部、栄東中学校コーラス部、所沢市立狭山ヶ丘中学校合唱部

高等学校①：星野高等学校音楽部A、埼玉栄高等学校コーラス部、埼玉県立不動岡高等学校音楽部A、埼玉県立松山女子高等学校音楽部C

高等学校②：川越東高等学校合唱部、星野高等学校音楽部B、埼玉県立川越女子高等学校音楽部

ユース：Sopra il fiume、Chorus Stellaria、男声合唱団「Le Terre」

一般：Paradise Relax B

(県大会の部門ごとに記載)



金川明裕先生&山脇卓也先生 スペシャル対談 ～アンサンブル・コンテスト 指揮者を立てるか？立てないか？～



佐々木)

日本の合唱界を牽引されるお二方に SVEC の総評、そしてお気付きの点をお伺いしたいと思います。

山脇先生 (以下敬称略)

全国的に共学化・混声化が進み、男声、女声団体が高校を中心に減少する中で、埼玉県は混声・女声・男声のバランスがとても良いですね。

金川先生 (以下敬称略)

多くの県の審査をして思うことは、埼玉県の男声コーラスのレベルの高さです。高校から一般まで多くの団体が出演され、優れた演奏に接することができました。

山脇)

指揮者を置かない合唱団がありました、必ずしも成功しているとは言えない団体がありました。とは言え「指揮者を置かなかったから賞が取れなかった」とはならず、指揮者なしの場合にどのようなアンサンブルが可能なのかを探っていただきたいと思います。

佐々木)

指揮者を置かない演奏、そのアンサンブルの技術向上のため、お二方からアドバイスをいただければと思います。

山脇)

演奏の瞬間・瞬間にお互いの音楽を感じ取りながら演奏を進めている団体がありました。とても成功していたと思います。

その団体は 7～8 人の少人数でした。SVEC は 20 人の人数制限ですが、いきなり 20 名で指揮者なしでの演奏は難しいではないでしょうか？「自分の意思が音楽に反映できる人数」での練習を先ずはすべきだと思います。

例えば「今日のリーダー」を決めて、その人を中心に音楽を作ります。翌日は次のリーダーが音楽を主導する。最終的に皆がリーダーを経験し、一人一人の「個」を主張し自主性が確保され、お互いの音楽的意識が尊重されたアンサンブルを可能にする。

そして選曲です。指揮者なしで何故この曲を演奏するの？と思う団体もありました。フレーズの伸び縮みの幅がとても大きい曲、テンポの変化が多い曲よりも、しっかりとシンプルにハモる曲から始めるのが良いではないでしょうか？ルネッサンスものとか、ハンガリーものとか。

金川)

指揮者が立たないときに、どのようにメンバー同士がコンタクトを上手に取れるかが重要だと思います。そのためには先ずフォーメーションを考えなければなりません。「コの字」型とか半円型とか。列の設定も考えましょう。2 列以上では、前の列と後ろの列で主従関係が生まれてしまい、自発性が阻害される恐れもあります。

練習内容も工夫できます。例えば全員が壁に向かって歌い、耳のみでコンタクトを取るなどの工夫で練習の質を上げることができると思います。

指揮者を置く場合は、指揮者を視る演奏者の視覚が感覚の中で重要な位置を占めます。しかし、指揮者を置かない場合は当然ながら視覚よりも聴覚がより重要になりますし、互いの息遣いを感じ、微妙な体の動きやアイコンタクト等で、いつもと違ったコミュニケーションが必要になります。

私も山脇先生同様 20 名または、それ以上の人数での指揮者を置

かないアカペラは難しいと思います。

指揮者と一緒に事前に音楽の形をしっかりと「決めて」、本番で「決まった」音楽を再現するということは音楽的にあまり意味がない。ちゃんと整理整頓ができた音楽ではなく、「ライブ感」のある音楽が求められます。「ライブ感」は、会場の響きによって、聴衆の反応によって、その日の天候によっても変わり得るものでしょう？

人数によって、選ぶ曲によって、その団の事情によって、指揮者の有り無しは是々非々で！が良いのではないかと思います。

山脇)

指揮者が「良い・悪い」を指示し、皆がそれに従うのではなく、メンバーが自分たちで音楽の「良い・悪い」を判断できるかが重要です。自分たちで作上げた音楽に対しメンバー同士が「今の演奏は良かったよね」と感じあえる。それが演奏の喜び、合唱の喜びにつながっていくと思います。

そこで「良い・悪い」を判断できる耳を育てることが重要ですが、指揮者がいると、その基準を指揮者に委ねてしまう傾向が強い。その耳と感性を育てることが、その合唱団の成長につながっていくのではないのでしょうか？

金川)

指揮者に判断してもらわないと演奏の良し悪しがわからない……。それでは本当の意味でのアンサンブルが成り立たない。

人数に話を戻すと、少人数になるとコンタクトは取りやすくなるけれども、逆に一人一人の音楽的力量的差がハッキリと出てきてしまう。そのバランスが難しいところですよね？

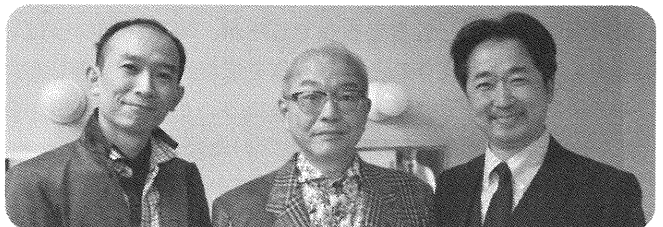
山脇)

大学の合唱団を振っていて思うことは、高校時代に比較的大人数で歌っていた団員よりも、少人数で歌っていた学生のほうが成長のスピードが速い！それはやはり、高校時代の練習に於ける一人一人にかかる責任の重さの違いかなと思います。日々の活動で歯車の 1 つになるか？意思を持った一人の演奏家になるか？

佐々木)

お二方のご助言に共通しているのは、指揮者が立つ、立たないに拘らず、団員一人一人の自発的な音楽へのかかわり方が重要だということ。そして各個人の演奏に対する責任感を如何に強め育てていくかが演奏の質の向上に繋がるということですね。その訓練の 1 つとして指揮者なしでの少人数練習がとても有効であることもわかりました。

長時間のご審査の後、お疲れでしょうに素晴らしいお話を伺うことができました。ありがとうございました！



左から 山脇先生、金川先生、佐々木常務理事

インタビュー：佐々木憲二

撮影：埼玉県合唱連盟



～華やく歌声 感動と共に～

彩の国男声コーラスフェスティバル2019

2019年10月5日(土) 於：埼玉会館

10月5日(土)、浦和、埼玉会館大ホール、関東支部共催で実施いたしました。今回は記念すべき30回。講師に男声合唱指導者若手トップクラス山脇卓也先生。個別講評はじめ『その日だけの合唱団』75名を指揮指導いただきました。曲は「オンザロード」「鷗」。感動的なステージとなりました。さらに恒例となりました若者のための特別講習会も実施していただき、先生には感謝の気持ちで一杯です。

そして各団体の演奏ですが、ここ数年かなり演奏レベルが向上しており、各世代のバランスも良く幅広い年齢での実施は、大変意味のある事ではなかったかなと感じました。



講師 山脇卓也先生



男声合唱団コール・グランツ

勿論、懇親会も関東からの役員来賓はじめ各地からのご参加をいただき例年以上に華やかに盛り上がりました。故小高元理事長の提案から始まりましたこの会も最初は10団体から始まり、今回は31団体のご参加をいただきました。当日はその中から30回全てに参加の2団体を表彰 (Il Campanile、男声合唱団コール・グランツ)、30年の歴史はとても意味深いものとなりました。

来年は10月3日(土)、秩父ミュージックパーク。リゾート気分で男声コーラスを盛り上げて参りましょう。
(常務理事 蓮沼喜文)

男フェスに出演して

Il Campanile

矢野 悠季

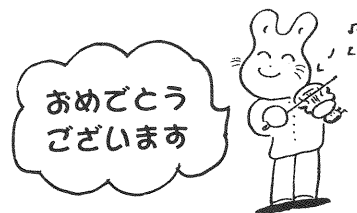
祝 講師特別受賞団体

Il Campanileは、清水脩 作曲「月光とピエロ」より2曲演奏しました。特別賞とともに表彰いただいたのは、30回連続出場の皆勤賞でした。地道に練習してきた団員にとって、このうえなく光栄なことです。

男声合唱の王道とも言える曲でしたが、埼玉会館いっぱいの温かい拍手をいただき、歌うことの楽しさをまた実感できました。もうひとつの本番、懇親会では、お酒を嗜みつつ、かなり飲んで、さらに飲んで、いろんな合唱団の方と交流させていただきました。

男フェスは、高校生のように若い団体から、ベテランの合唱団まで、誰もが盛り上がるイベントです。埼玉県は、合唱が熱い。男声合唱も熱い。それは、連盟のみなさまの手厚いサポートあってのことです。

これからも、Il Campanileは、本気のおじさんたちでありつづけたいと思います。まずは、50回連続出場を目指して。





県立川越高等学校音楽部

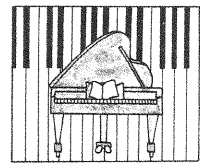
第70代部長 大木 悠生

私たち県立川越高校音楽部は、例年この男フェスが代が変わってから最初のステージとなるのでかなり緊張している面もありましたが、ありがたいことに、開会式で「いざ起て戦人よ」の指揮を私たちの学生指揮者に振らせていただいたり、特別講師として来られた山脇卓也先生から特別賞をいただくことができたりと、とても多くの経験をさせていただきました。

男フェスというのは様々な年代の男声合唱団の方々が来られるので、団体ごとに特色のある歌を披露されていて、たとえば、笑顔でとても楽しそうな演奏や、ものすごいパワーで迫るような歌、優しくのびのびとした声でまとめられていたり、名前にもあるように「祭り」という言葉の合う空間でした。

そして、山脇先生による合同演奏は、そんな方々と一緒に演奏させていただいた貴重な経験になりました。

フェスティバルは私たちにとって新たな一歩を踏み出した記念すべき日になりました。



Canetis

代表 山田 寛人 副代表 小山 内宙

初めにこのような演奏の機会を設けてくださったスタッフの皆様、そして講評いただいた山脇先生に深く御礼申し上げます。ありがとうございました。

私たちCanetisは2018年春に千葉県立幕張総合高校合唱団OBで立ち上げた男声合唱団です。

高校時代は顧問の先生という絶対的存在に引っ張られてきたせいか、自分たちだけの力で音楽を創り上げていくことが非常に難しく、練習の度に「果たして美しい音楽に近づけているのか」と頭を悩ませ続けていました。

そんな不安を抱えたまま迎えた本番当日でしたが、他団体の皆様の熱い演奏に胸打たれ、そして会場の温かな雰囲気にも包まれたおかげで会心の演奏が披露できたのではないかと思います。

また数多くの参加団体の中から特別賞に選んでいただき大変光栄かつ、今後合唱団としてさらに精進せねばと身が引き締まる思いがしました。

この経験を生かし、今後も美しい音楽を追求していきたい所存です。



撮影：埼玉県合唱連盟
写真提供：Canetis

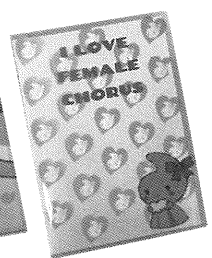
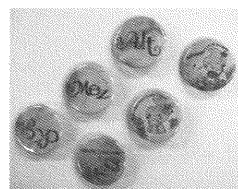
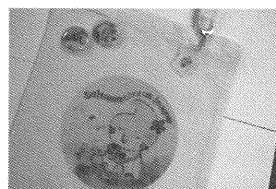
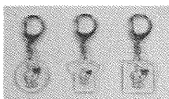
お知らせ

○総会及び各事業の受付にて行いました義援金について報告いたします。

東日本大震災による災害義援金25,858円、台風19号による災害義援金2,633円
朝日新聞厚生文化事業団を通じて寄附いたしました。ご協力ありがとうございました。

○たまりん♪グッズ 新作できました。

クリアファイル、トートバッグ、キーホルダー、缶バッジができました！
事業の受付などで販売していきますので、ぜひお立ち寄りください。

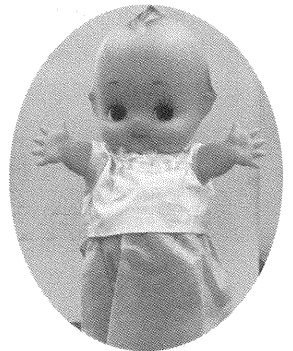




第43回全日本おかあさんコーラス埼玉県大会

(第45回おかあさんコーラス埼玉県大会)

《大会延期開催について》



すでに皆様にお知らせしました通り、標記の大会は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点より、2月29日(土)・3月1日(日)での開催は見送り・延期といたしました。

本大会へは65団体が出演予定として登録されており、出演順等すべてのプログラムも組み終えた状態での、緊急かつ苦渋の見送り判断となりました。それに伴い、速やかに延期日程の検討、会場ホールとの調整等を行った結果、5月25日(月)・26日(火)と平日開催とはなりますが、二日間連続、同じ会場(和光市民文化センター)での延期開催を実施する方向になりました。

ただし、延期した事により、大会開催内容はいくつかの変更を余儀なくされております。大きな変更点として、今回は選考審査は行わないことになりました。日程が平日開催になったことで、参加が難しい団が予想されるため、関東大会(7月/新潟県妙高市)への県からの推薦団体(13団体)は、優先団体以外すべて抽選といたしました。特殊な事情であることをご考慮いただき、何卒、ご理解ご協力をお願い申し上げます次第です。

大会当日ホワイエでは新しく作った「たまりん♪グッズ」やゲスト出演していただく予定だった「男声合唱団APERTASSオリジナルグッズ」などの販売をはじめ、理事総出で例年にもまして楽しい大会にしたいと考えています。平日開催ではありますが、お時間のある方は是非ご来場ください!(常務理事 須田 信男)



よもやま

永年出場表彰団体四方山話

出場回数が多い合唱団に、『長く続ける秘訣など』のお話をうかがいました。

♪質問♪

- ①合唱団名 ②団員数 ③練習の頻度
- ④貴団の愛唱歌は?
- ⑤長い間活動してきて、大変だったこと、嬉しかったこと。
- ⑥貴団の活動を長く続ける秘訣を教えてください。
- ⑦最後に一言…

- ① 蕨女声合唱団 ② 22名 ③ 週に1回
- ④ 主に信長貴富作品
- ⑤ 団員同士が長いつき合いなので、何でも話し合えるので、お互いに聞いてもらってスッキリして帰れる(ストレス解消)
- ⑥ なんでも全員で話し合う
- ⑦ 団員の高齢化はあるけれど、お互いに助け合って歌っていきたいですね。





- ① 久喜女声合唱団 ② 12名 ③ 月2回
 ④ 埴生の宿（昔懐かしい曲で、ふるさとの情景が脳裏に浮かんでいきます。）

夜明けのうた（未来に向かって勇気を与えてくれる歌だと思えます。）

- ⑤ 団が結成した頃は、団員のお子さん方も小さく大変な時期もありましたが、今では、協力してくださった家族にも感謝しています。そして一時的には、一泊の合宿も経験し、皆と生活を共にして、大好きな歌を勉強できたことは、楽しい思い出になりました。

- ⑥ 年に3回のステージで一步一步前進できることを願いながら、楽しく練習に励んでおります。また、今日までの久喜女声合唱団の歩みを大切に、歌えることの幸せを感じています。

- ⑦ 先日、私達合唱団が、おかあさんコーラス大会出場通算40回と伺いこのように長く出場できましたのも、県合唱連盟のお力添えのおかげとっております。本当にありがとうございました。いつもきめ細やかであたたかな國弘先生のご指導と、素敵な伴奏で私達を支えてくださっている大賀先生に感謝しております。これからも健康に気をつけて、大好きな歌を歌い続けて参りたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



- ① よのコーラス ② 26名 ③ 週1回

- ④ 鈴木憲夫作品…茜の空に 白鷺乱舞

なかにしあかね作品…今日もひとつ

- ⑤ 指揮者の大沼先生が創立当時からずっと私達を根気良く熱心に指導して下さった事。そして団員が心を一つに数多くの舞台を楽しく経験出来た事がとても嬉しく幸せな事です。

- ⑥ 指揮者、伴奏者の先生お二人を中心に、団員の皆さんが心優しい人でお互い助け合ったり、協力したりと、人間関係が良い事だと思います。

- ⑦ 今年創立50周年を迎える記念の年に連続45年通算45回の表彰をいただける事になりうれしく思います。10月17日(土)の彩の国さいたま芸術劇場で50周年記念コンサートを行います。その時はよろしく願いいたします。



- ① コールさくらだ ② 12名 ③ 週1回

- ④ この街で あなたとわたしと花たちと

- ⑤
- 高齢化が進み団員が少なくなった。
 - 新しい人が入らない。
 - 少人数のためきめ細やかな指導を受けられる。
 - 演奏会後の達成感

- ⑥
- 歌うことが好き
 - 家族の理解
 - すばらしい指導者とピアニストに恵まれている事
 - 団員同士の雰囲気が良い。

- ⑦ いつまでも若々しく元気に歌い続けていきたい。



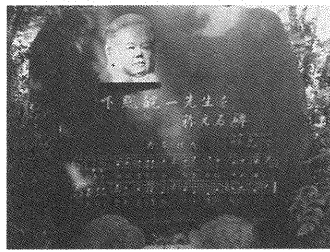


埼玉・芸術家シリーズ

「童謡と和声学の偉人」 一下總皖一物語

北浦和公園の敷地内にひとつの歌碑がある。木々に囲まれ、「下總皖一先生を称える碑」の文字と、「たなばた」の楽譜が刻まれている。そう、誰もが知っている《ささのはサラサラ のきばにゆれる》の「たなばた」。あれ「たなばたさま」でないの？

何故ここに歌碑があるのかと言え、1898年現在の加須市に生まれた下總皖三（皖一）は地元しもおさかくぞうの学校を卒業後、埼玉師範学校に入学している。



たなばたの歌碑

この師範学校や官立旧制浦和高校（埼玉大学）の跡地が北浦和公園となった。そのゆかりの地に彼の偉業を称えて歌碑が建てられた訳である。

彼の歴史を説きながら、彼の偉業についてふれたい。彼は、東京音楽学校師範科を主席で卒業してから新潟県長岡女史師範学校を皮切りに、8年間、各地の師範学校で教鞭をとりながら作曲活動を続けていた。この間に結婚や皖三から皖一に名前を変えている。ほとんどが国公立なのに、昭和2年頃私立の成城小学校（成城学園初等学校）に1年8ヶ月務めていたことがあった。音楽教員をしながら主に学校劇のための作曲をしていた。「成城創立十周年祝歌」の楽譜に下總皖一作曲と書かれている。その後、文部省在外研究員として、作曲法研究のためドイツに留学した。帰国後、東京音楽学校の講師となった。ここから、「音楽界における福沢諭吉」といわれるように、彼の著書《和声学》《日本音階の話》《作曲法》《楽典》《模範音楽通論》《音楽理論》《対位法》など近代音楽の基礎を作り、彼の功績により日本語で初めて西洋音楽の理論を学ぶことができるようになったのである。中でも、《和声学》は優れていて、「和声学の神様」と言われた。音大生のテキストとして《音楽理論》は昭和30年前後から平成12年まで第57版まで出版されていた。

教え子には、合唱曲「筑後川」の團伊玖磨、「大地讃頌」の佐藤眞、など数多くの俊英がいる。

作曲した校歌は全国で495曲、埼玉県だけで146曲ある（廃校も含む）。校歌といえば斉唱のイメージが

あるが、単旋律の校歌が495校中59校しかない。小学校では2部合唱が主だが、高等学校では4部合唱までである。

「校歌斉唱」ではなく「校歌合唱」なのである。このようなたくさ



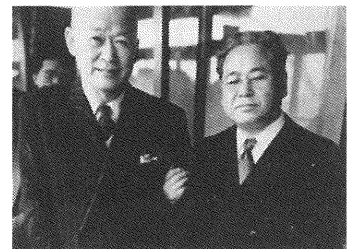
著作本

んの校歌と関わったのは文部省教科書編集委員や視学委員がきっかけだろう。昭和27年頃、半年で25校もの校歌を作曲した記録が残っている。

そして童謡も数多く作曲され、《野菊》《ほたる》《電車ごっこ》《たなばたさま》《かくれんぼ》《花火》《兔のダンス》など、現在でも小学校の音楽の教科書に掲載されている曲もある。また、西洋音楽と日本音楽の橋渡しを「春の海」の作曲者、宮城道雄らと試みていた。

さて、最初の疑問「たなばた」それとも「たなばたさま」であるが、作曲当時は「たなばた」であったが「たなばたさま」に変更した記録が残っていないため、謎のままである。

そんな「ささのはサラサラ のきばにゆれる」とその日も流れていたであろう昭和37年7月7日に病状が悪化し、翌8日64歳で生涯を閉じた。



山田耕笏と下總皖一

日本の音楽の歴史の流れの中で決して忘れてはならない重要な人物であり、埼玉の偉人である。個人的には、小学校の教科書に山田耕笏らと一緒に作曲家として載せてほしいと思うばかりである。

（理事 三森 敏）

写真提供 加須市おとね文化・学習センター
アスタホール内 下總皖一資料展示コーナー
資料提供 成城学園 研究誌《教育問題研究》
参考文献 下總皖一「野菊」「たなばたさま」などの作曲家
中島睦雄 著



Tact vol.29



指揮者 卜部 一恵

私は女子学院というミッションスクールで中学・高校時代を過ごしたので、毎朝は讃美歌を歌うことから始まり、音楽の授業ではバッハやモーツァルトの宗教曲を歌っていました。ただ校風はとても自由だったので文化祭ではバンドを組み、ヴォーカルを担当していました。「歌う」ことが好きということに気づき、東京学芸大学音楽科に進み声楽を専攻しました。しかしその当時はあまり熱心な学生でなく、合唱することも授業以外はありませんでした。

そんな私が埼玉県の公立中学校で音楽を教えることになったのは今から38年前になります。授業でどんな合唱

曲ができるのか全く分かりませんでした。しかも合唱部をもつことになり…ここからです。合唱の世界に足を踏み入れたのは、自分でも合唱をしようと思い、恩師 伊藤栄一先生のTOKYOカントライで演奏活動をし（現在も続けています）、素晴らしい指導者のいるところには、県内だけでなく都内や札幌・出雲などにも行き、直接お会いして学ばせていただきました。初任校での全国大会の舞台はまさかのNHKホール。演奏が終わり舞台袖で緊張の解けた生徒達が号泣していた姿は忘れられません。2校目での最初の全国大会の舞台は京都コンサートホール。その半年前、修学旅行で浅井敬壹先生の京都エコーと京都ノートルダム女子大学の講堂で合唱交流会をさせていただきました。その時に「今年の全国大会は京都です。皆さん、また京都に来てください。」と言っていただき、合唱部の生徒達と「絶対にまた来よう！」と誓い、夏休みに一生懸命に練習して約束通りに全国大会の舞台裏で浅井先生に再会できたときの感動。「合唱」を通してたくさんの人達と知り合い、「音楽」によって私の教師人生はたくさんの感動に彩られるものとなりました。埼玉県合唱連盟の理事として活動できたことも素晴らしい時間でした。合唱連盟の皆様がこの場をお借りして御礼申し上げます。

これからはフィールドをかえて「音楽」と共に人生を歩んでいきたいと思っています。

それぞれの周年記念

40周年

大宮フラウエンコール

代表 嶋津 洋子

2010年の30周年記念演奏会のあと35周年を、と思っているうちに、いつの間にか10年の月日が経ってしまいました。そのような中、ひょんな事から会場が確保でき、急速演奏会を行うこととなりましたが、準備期間が1年しかなく、清水の舞台から飛び降りるような気持ちの決断でした。

40年の間に歌ってきたどの曲たちも愛おしく、プログラム作りにも四苦八苦ししました。曲が決まった後は皆必死になって暗譜に取り組み、終わったあとはほっとすると同時に達成感も味わえた演奏会でした。ご来場くださった皆様、ほんとうに有難うございます。

発足してから40年余りの月日が流れ、いつの間にか「おばあちゃん」と呼ばれるようになった私達。悲しい時も、苦しい時も、皆と心を合わせ歌うことで、慰め、励まされてきました。これからも大きな愛でご指導くださる野口先生と、素敵なピアノで支えてくださる長野先生のもと、楽しく歌い続けていきたいと思ひます。

私達の活動を支えてくださる県合唱連盟をはじめすべての皆様に感謝申し上げます。





♪ 私たちの場所

Stage

久喜女声合唱団

代表 折原キク子

私たちの合唱団は、昭和51年に久喜市内の音楽好きな人たちが集まり発足しました。昭和～平成～令和と43年を経て団員の年齢も高くなり人数も少なくなりましたが、良き指導者 國弘先生、伴奏の大賀先生のピアノに助けられ月2回の練習を楽しみながらやっております。

独自の演奏会等は出来ませんが、おかあさんコーラス大会、県合唱祭、久喜市合唱祭などに出演し、昨年はおかあさんコーラス大会に連続出演39回の表彰を受けました。

これからも元気に楽しく歌い続けていきたいと思ひます。

Sopra il fiume

団長 奚 佳亮

中高生や中高年の方を中心に合唱が盛んである埼玉県において、出身に囚われずユース世代の合唱好きが意欲的に活動できる団を目指し、2018年6月に創団しました。

イタリア語である団名は活動拠点とする川越を表します。

現在は20人以上の団員が在籍し、毎週日曜日に練習しています。

指導の先生をお呼びせず、団員同士で意見を出し合いながら、指揮なしアンサンブルというかたちで主体的な音楽を追求しています。

練習では、自分たちの手で音楽を作ることの難しさを感じることもありますが、それを乗り越え、自分たちの音楽を本番で披露できた時の喜びはととても大きなものです。

ぜひ、私たちの演奏を生で聴いてみてください。

出演情報は公式Twitter (@Sopra_il_fiume) をチェック!!

川口市立安行中学校合唱部

副部長 福原まり乃

安行中合唱部は、コンクールの他に、福祉施設を訪問したり、地域のイベントに参加したりしています。そのような場所では、昔ながらの曲や、皆さんがよく知っている曲などをお届けしています。

このような活動の中、福祉施設を訪れ、歌を歌った際、驚いたことがあります。それは、涙を流しながら聴いてくださっている人がいたことです。自分たちの歌で、泣いて喜んでくれる人がいることがとても嬉しかったです。また、人の心を動かす歌の力は偉大であり、すばらしいなと実感しました。

この出来事で私は、合唱部に入ってよかった、これからも続けていきたいと心から思いました。さらに、歌で「人の心を動かす力」を身につけ、その魅力を届けていきたいです。

進修館高等学校合唱部

部長 村田 蓮

私達合唱部は、2年生8名、1年生10名の計18名で顧問の先生のご指導のもと、明るく楽しく元気に活動しています。

私達の活動は主に、文化祭などの学校行事への参加や、合唱祭、コンクールへの出演です。昨年度からは、他校のコンサートに参加させていただくなど、少しずつ活動の場を広げています。

学校外での演奏は、混声合唱で参加していますが、文化祭では、音楽室でのミニコンサートで、男声合唱、女声合唱、混声合唱と、様々な形態で合唱を楽しんでいます。

私達の部活は、学年、男女を問わず仲が良いことが最大の魅力です。その仲の良さを武器にこれからも全員で最高の演奏が出来るよう、精進して参ります。

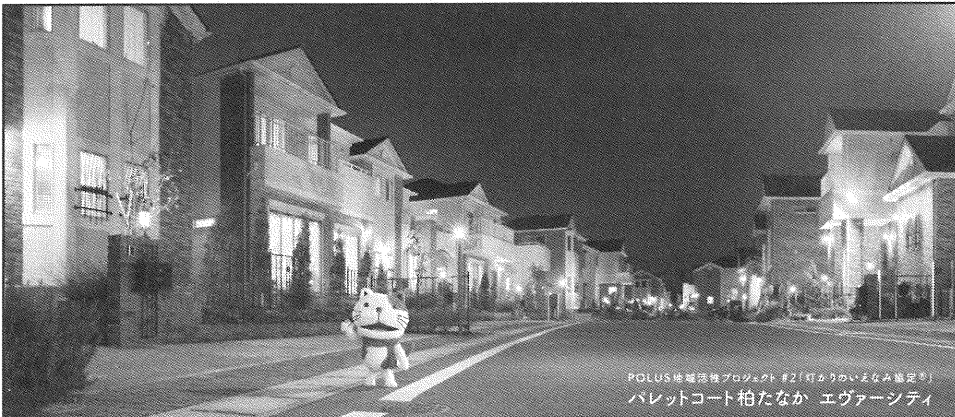
ツイッター

@scf_from1957

フォローお願いします♪

編集
後記

Pause52号をお届けいたします。全日本合唱コンクール、SVECの特集と各インタビュー、彩の国男声コーラスフェスティバルの報告とおかあさんコーラス埼玉県大会の紹介、埼玉・芸術家シリーズ・下總皖一と盛りだくさんの内容です。今後も皆様の豊かな合唱ライフをお手伝いします。(理事・浅子 元)



この街は、
あたたかい約束で
守られています。

住まい価値創造企業

POLUS
ポラスグループ

ポラス株式会社
埼玉県越谷市南越谷1-21-2 TEL048-989-9119
(宅建業 国土交通大臣(12)第2401号(株)中央住宅)

POLUS 地域定住プロジェクト #2「行かろいよなみ限定」
バレットコート 柏たなか エヴァンティ